

スポークスマン

From 中華人民共和国駐大阪総領事館



VOL.1 2020年11月

Spokesman From Consulate-General of The People's Republic of China in Osaka

創刊特集（中華人民共和国成立71周年・新型コロナとの闘い）

目次

- ・P1 創刊に寄せて
- ・P2 地図で見る中国国慶節の祝い方
- ・P3 新中国成立71周年で偲ぶ中日友好の歩み
- ・P4 様々な人間像から分かる中国と新型コロナウィルスとの闘い
- ・P7 新型コロナに負けない中国と日本の協力
- ・P8 総領事館の取り組みとイベント予告



創刊に寄せて

今年、新型コロナウイルスが猛威を振るい、世界の情勢が例年とは一変する中で、中国は数多くの試練を乗り越え、コロナとの闘いで大きな成果を収め、正常な社会秩序を取り戻し、うち揃って中華人民共和国成立71周年の国慶節を迎えることができました。

中国と日本は一衣帯水の隣国として、コロナを前に、互いに見守り、助け合いました。総領事館の管轄地域でも「山川異域、風月同天」といった多くの中日友好エピソードが生まれ、人々を深く感動させました。ポストコロナの時代に向けて、私達はこの感動をしっかりと受け継ぎ、絶えず中国の最新情報を発信し、中日両国の友好物語を語り続け、両国間の相互理解と絆をさらに深めていく所存であります。

この思いを込めて、私達は『スポークスマン From 中華人民共和国駐大阪総領事館』を創刊し、

創刊特集のテーマを「中華人民共和国成立71周年・新型コロナとの闘い」に決めました。これからも季刊で発行する予定です。今後、本刊が一報道官として中国と総領事館の最新情報を皆様に伝え、一立会人として中日両国の繁栄と中日関係の発展を見届け、一友好使者として中日国民の心の距離をさらに縮めることを切に願いつつ、一人でも多くの方々に届けてまいりたいと思います。

末筆ながら、皆様のご健勝とご活躍をお祈りするとともに、ご指導とご鞭撻を賜りたく、謹んでお願い申し上げます。

二〇二〇年十月吉日
中華人民共和国駐大阪大使級総領事

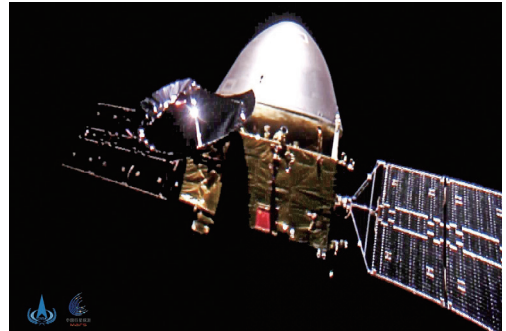
何振良



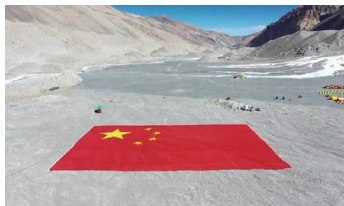
地図で見る中国国慶節の祝い方



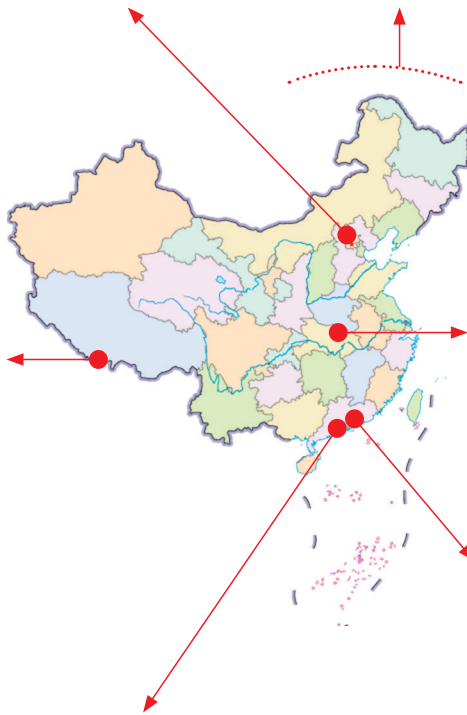
中華人民共和国成立71周年祝賀レセプションが9月30日夜、人民大会堂で開かれ、習近平国家主席ら中国共産党と国家の指導者、招待客ら計500人近くが出席した。



中国の火星探査機「天問1号」が宇宙で初の「自撮り」を行った。果てしない宇宙空間に銀色のランダーと探査車、金色のオービターが輝いている。祖国に無事を報告し、国慶節の祝意を表した。



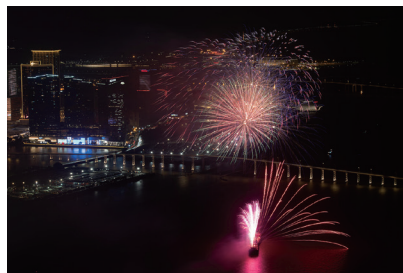
国慶節を目前にして、面積6700平方メートル、重さ1.3トンに及ぶ手作りの中国国旗が標高5200メートルのチョモランマ・ベースキャンプで披露された。この国旗は40名あまりのチベット自治区出身の障害者によって作成され、20名の警察官が展示を手伝ったという。



中国湖北省武漢市では国慶節を迎え、川沿い25キロにわたりライトアップショーが行われた。



中国香港特別行政区政府は1日、香港コンベンションセンターでレセプションを開き、中華人民共和国成立71周年を祝った。



中国澳門(マカオ)特別行政区で10月1日夜、国慶節と中秋節を祝う大規模な花火大会が行われた。

中国文化観光部の統計によると、国慶節の8連休中、中国全土の鉄道利用者は毎日延べ1千万人以上を保ち、1日当たりの利用者数は前年同期の約90%にまで回復した。そして、中国全土の国内観光客数は延べ6億3700万人、国内観光収入は4665億6000万元(1元は約15.8円)に達した。



新中国成立71周年で偲ぶ中日友好の歩み

国慶節をきっかけに、本刊は14の歴史的瞬間で中日友好の歩みを振り返ってみた。

1. 1956年、北京市と上海市で初めて「日本商品展覧会」が開催された。毛沢東主席、周恩来総理も来場し、北京会場では126万人が、12月の上海会場では168万人が参観した。

2. 日本の松山バレエ団は1958年の初訪中から中国でブームとなり、中日両国の文化交流に積極的な役割を果たした。写真は1958年に北京で公演された『白毛女』。

3. 1962年、中華人民共和国側代表の廖承志氏と日本側代表の高碕達之助氏が『中日長期総合貿易に関する覚書』に署名し、半官半民的な貿易形態を確立した。

4. 1972年9月29日午前、『中華人民共和国政府と日本国政府の共同声明』の調印式が北京人民大会堂で挙行され、中国側は周恩来総理、日本側は田中角栄内閣総理大臣が、それぞれ本国政府を代表して共同声明に調印した。

5. 1974年7月13日、日本初開催である中国大型総合展覧会の「中華人民共和国展覧会」が大阪で盛大に開かれた。

6. 1978年8月12日、『中華人民共和国と日本国との間の平和友好条約』が北京で調印された。

7. 1978年10月26日、鄧小平副総理は新幹線で古都の京都を訪れた。この時、鄧小平副総理は随行者記者団に「新幹線に乗ってみると、前進をせかされている感じがする。われわれは今こそ、前進しなければならぬ」と述べた。



8. 1978年10月28日、鄧小平副総理が当時の松下電器の茨木テレビ事業部を訪問し、「中日友好、前程似锦」(中日友好の前途は錦の如し)と揮毫した。原本は現在大阪府日本中国友好協会に保管されている。

9. 1979年12月5日、大平正芳総理大臣が政府開発援助の実施を決定した。2016年までに、中国に対して約3兆3165億円の有償資金協力、1576億円の無償資金協力、さらに1845億円の技術協力を提供したという。

10. 中日友好病院が1984年10月23日に開院し、中日両国政府の協力した大型の近代的な総合病院として中日医療の架け橋となり、新型コロナウイルスとの闘いでも大きな役割を果たした。

11. 1992年10月の中日国交正常化20周年の際に、明仁天皇と美智子皇后が中国を友好訪問し、日本の天皇として史上初の訪中を実現した。

12. 中日国交正常化30周年の際に、「中日友好万人友誼林」記念碑の落成式と記念植樹が万里の長城の八達嶺で行われた。中日両国から5000人が参加したという。

13. 2008年中国四川省で大地震が発生し、日本の国際緊急援助隊が外国の救助隊として最も早く救助活動を開始した。一方、東日本大震災の際に、中国救援隊が国際救援隊の中で最も早く日本に到着し、順調に救援任務を終え、国際救援隊の中で最後に撤退した。

14. 新型コロナウイルスを前に、日本政府は1月29日のチャーター便で中国に支援物資を届け、中国政府も数回に分けて防疫物資を日本に届けた。ほかにも、両国の地方政府や民間では数え切れないほどの防疫物資の相互寄付が行われた。

様々な人間像から分かる中国と新型コロナウイルスとの闘い

新型コロナウイルスによる感染症はこの100年間、人類が経験したパンデミックの中でも影響が最も広範にわたるもので、世界の人々の生命と健康が重大な脅威にさらされている。中国が新型コロナウイルス対策で成功した背後には、一人一人の努力と、助け合い、暖かい見守りが欠かせなかった。本刊では様々な人間像から中国と新型コロナウイルスとの闘いを振り返ってみた。



2020年1月7日、習近平国家主席は感染症の予防・抑制対策について「人民大衆の生命と健康を第一とし、確実に効果的な措置を講じて、感染症拡大の勢いを断固食い止めよう」と指示した。

また、新型コロナウイルス感染症対策の正念場となった3月10日、習近平国家主席は湖北省武漢市に赴き、感染予防抑制の取り組みを視察し、医療従事者等の代表らを慰労した。



中国の国民は誰一人として
欠けることなく新型コロナウイルスとの
戦いに貢献した。



白衣の天使

「白衣の天使」と呼ばれる中国の医療従事者は時間、場所を問わず、いかなる代価をも惜しまず全力で患者を救護し、生命を救った。

写真①：雪の中で移送された新型コロナ肺炎患者を収容・治療する武漢協和病院腫瘍センター病院。

写真②：ミャオ族とトン族の村落で感染防止作業を行う貴州の農村医師夫妻。





コミュニティー職員

400万人余りの職員が全国65万の都市・農村コミュニティーで奮闘し、感染監視、体温測定、住民一斉調査、政策PR、感染防止・消毒・滅菌などの作業を行った。

写真①：住民の登録と一斉調査を行う武漢のコミュニティーネットワーク管理員。

写真②：移動が困難な高齢者のために食事を届ける新疆ウイグル自治区ウルムチ市のコミュニティー職員。



建設作業員

「収容すべきはすべて収容し、治療すべきはすべて治療し、検査すべきはすべて検査し、隔離すべきはすべて隔離する」を実現するため、武漢は10日間で火神山病院、12日間で雷神山病院を完成させた。その背後には、自ら志願して春節休みを返上し、日夜作業を続けた建設作業員がいる。



世界の新型コロナ対策に助力

中国は世界とともに行動し、ウイルスの国境を越えた伝播を防止するために尽力・貢献した。

写真①：1月26日、広東省深圳市の疾病制御、税関、出入国審査などのスタッフがクルーズ船「コスタ・ベネチア」の乗員6000人余りの防疫検査を行い、その日のうちに滞在先の手配を終えた。

写真②：1月27日、中国外交部は中国の外国大使館（外交団）に向け、感染予防・抑制状況について説明した。

写真③：中国国家衛生健康委員会とWHOが複数カ所をオンラインで結ぶ形式をとって、新型コロナ肺炎を予防・治療した中国の経験を分かち合うための国際報告会を共催した。





①



②

無名の英雄たち

5月31日までに新型コロナ感染対策に参加登録したボランティアは881万人に達し、ボランティア活動は46万回を超え、活動時間は2.9億時間を超えた。

写真①：武漢のコミュニティー・ボランティアは住民のために医薬品の購入を代行した。

写真②：メディアから「レインコートのお姉さん」と呼ばれた飲食業者の劉さんは、無償で武漢の医療従事者に食事を届けた。

不撓不屈の人々に最高の敬意を

2020年9月8日午前10時、全国新型コロナウイルス対策表彰式が北京の人民大会堂で盛大に執り行われた。楽曲『祖国の英雄に敬意を表す』が流れる中、習近平国家主席は、鐘南山らの受章者たち一人一人に国家勲章と国家荣誉称号を手渡し、気さくに握手し、祝いの言葉をかけた。



これらの人間像を貫くテーマは「人民優先、生命優先」だった。このような無数の暖かさがあったからこそ、中国は新型コロナウイルスに勝つことができたのだ。

新型コロナに負けない中国と日本の協力

新型コロナウイルス感染症の衝撃を前にして、中日両国の各界は幅広い分野で連携し、お互いに助け合うという両国の優れた伝統をはっきりと示すとともに、経済貿易、文化、デジタル技術での協力も続々と展開し、両国関係発展の基盤を一段と揺るぎないものになっている。

防疫物資の相互寄贈

中国が新型コロナウイルスと奮闘している際、日本の各自治体や市民団体は、続々と援助の手を差し伸べた。そして日本が感染拡大を食い止めることができるかという重要な局面を迎えた際には、我がことのように感じた中国の政府や国民は、積極的に日本へ援助の手を差し伸べた。

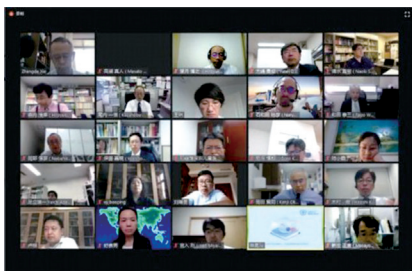
例えば、在日本中国大使館や遼寧省大連市政府は、和歌山県に消毒液や医療用マスク、医療用防護服、手袋などを寄贈した。それら医療物資や衛生用品は主に医療機関や高齢者施設、学校などに配布された。自民党の二階俊博幹事長は和歌山県庁で行われたセレモニーで、「とても感動しており、深く感謝している」とし、「中国が友情の手を差し伸べて、私たちがウイルスとの闘いに勝利できる大きな自信を与えてくれている。日中両国は手を携えてこの困難を乗り切ることができるよう取り組む」と語った。

ほかにも、無数の感動的なエピソードがあった。共にウイルスと闘った今回の経験により、中日両国民の相互理解や友好感情が一層深まり、中日友好の新たなページが刻まれるに違いない。

新型コロナ対策知見の共有

小児の新型コロナ感染防止対策について中日の専門家が経験共有

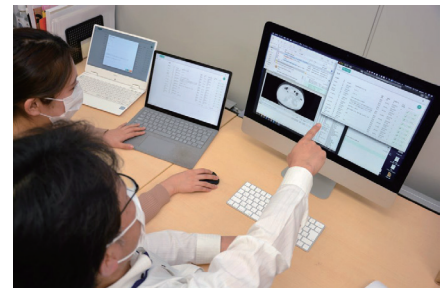
中国中華医学会小児科学分会呼吸器学グループ、感染学グループは6月6日、日本小児科呼吸器学会、日本小児科感染症学会と共同で「中日の小児新型コロナウイルス感染診療の経験交流」をテーマにしたWEB会議を開いた。



デジタル技術分野での協力

新型コロナ感染疑い症例のCT画像分析技術で、日本の医療現場を支援

3月31日、アリババグループは、株式会社NOBORI、エムスリー株式会社とともに、聖マリアンナ医科大学病院による新型コロナウイルス感染症疑い症例に対するCT検査画像を用いた無償診断支援サービスの開始にあたり、共同支援プロジェクトを開始した。



経済貿易

最新の中国経済と中日貿易データ

中国の7月から9月までのGDP（国内総生産）は前年同期比4.9%増となり、2四半期連続のプラス成長を維持し、1-9月のGDPは前年同期比0.7%増で、経済の回復が加速している。

また、日本の財務省が10月19日に発表した9月の貿易統計（速報、通関ベース）によると、対中輸出額は前年同期比14.0%増の1兆3417億円で、2018年1月（30.8%増）以来の伸び幅となった。

総領事館の取り組みとイベント予告

国慶節「記念パック」

新型コロナウイルスの流行という特殊な状況の下で、総領事館は管轄地域の各界とともに中華人民共和国成立71周年の国慶節を迎えた。今年は例年開かれていた祝賀レセプションのかわりに、新中国の歩みや新型コロナ対策を紹介したビデオ、総領事直筆の手紙、総領事館オリジナルのパンダのマスコットキャラクターが描かれたエコバッグ、そして



月餅を入れた国慶節「記念パック」を各界の方々へ送り、皆様とともに国慶節を祝った。今後、総領事館は新型コロナ対策の常態化に備え、様々な方法で皆様との交流を展開していく。



中日双方がパンダ「旦旦」日本滞在20周年記念品を制作

中国が日本に貸与していた神戸市立王子動物園のジャイアントパンダ「旦旦」(タンタン)が、20年に及ぶ日本での生活にピリオドを打ち中国に戻る。中日双方はパンダ「旦旦」日本滞在20周年記念品をそれぞれ制作した。擬人化した少女パンダ「旦旦」は、当総領事館が制作したもので、右側の竹林の中に座っている「旦旦」のファイルは、神戸市立王子動物園が制作したものだ。

中国国際輸入博覧会 (CIIE)

時間：11月5日(木)-10日(火)
 場所：上海市、オンライン
 概要：CIIEは世界初の輸入をテーマにした博覧会で、今年には三回目の開催となります。詳細はCIIEのホームページまたはオフィシャルAPPでご確認ください。



パンダと共に未来を創るプロジェクト

時間：11月7日(土)
 場所：大阪府岸和田市
 概要：岸和田市主催、アドベンチャーワールド共催のイベントに総領事館も参加！パンダの彩浜ちゃんの食べ物のためにがんばるぞ！
 プロジェクト詳細：岸和田市のホームページをご覧ください。



山東省輸出商品展示商談会

時間：11月10日(火)-12日(木)
 場所：大阪市
 概要：マイドームおおさかにて山東省商務庁の主催により「第22回中国山東省輸出商品展示商談会」の開催が決定しました。
 参加方法：日中経済貿易センターのホームページでご確認ください。

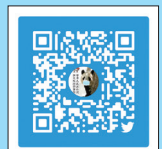


中華人民共和国駐大阪総領事館
 〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町3-9-2
 連絡先：06-6445-9481 (代表)

総領事館ホームページ



公式ツイッター



制作協力：人民中国雑誌社